



柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

親、子どもにとって理想の保育園とは…

区内 4 保育園は老朽化が進み、園児数も年々減少し定員割れを起していることから、柿崎区地域協議会は保育園の将来的なあり方を検討してきました。11月19日に保護者会役員の皆さんと懇談会を開催し意見交換を行いました。意見交換の内容を報告します。

□保護者が必要とする 保育園のサービスは

① 病児・病後児保育

② 保育時間の拡大（土曜日の開園時間の延長、休日・祝日保育）

③ 通園バスの利便性向上

④ 延長時間に体操教室やピアノ教室などの充実

⑤ 給食に関しては米を持参してもよいから温かいご飯の提供

そのほかに、自分が就労したときには、保育園に合わせて仕事を選んだ実態があるので、自由に選べるような縛りのない保育園、また園児が自然環境の中で目いっぱい遊べる保育園を望み、「柿崎にこんないい保育園があるから、柿崎に住みたい」と選んでもらえる保育園になってほしいという声がありました。

□保育園の統合に関する意見

① 小学校の隣にあるのが一番便

利。しかし、小学校の駐車スペースが少ないので、駐車場の完備が必要

②すでに保育園を統合している他の区の保護者の感想、意見などを聞ければよかった。

③一クラスの人数が多くなると、保育士の目が届きにくくなる。

④園児が多くなり仲間が増える。

⑤統合することに反対ではない。ただ民営化されると、採算性を重視して保育の質が落ちることが懸念材料

⑥自宅から遠くなる。

⑦保育園の適正配置計画の市の考えを先に提示してほしい。

⑧統合に反対の意見をどう吸い上げていくのかが課題

⑨保護者全員にアンケートを実施し回答数を増やすべき。

⑩すでに小学校の統合問題が各地域で話が出ている状況であ

るにも関わらず、教育委員会と保育課との横のつながりが無い。

「入園が自由にできない」「下の子を家庭でみている場合に上の子を預けられない」「中途入園は無理」「産前産後の一時保育制度は不十分」という声もありました。

就労人口が減っていく中で、親が安心して預けられ、働き続けられる保育園が必要不可欠であるとあらためて思いました。今後、地域協議会としても、出された意見を課題として検討を進めていきたいと考えています。

（委員 貝谷雅子）



保育園の現状等の説明後、各保育園に分かれて意見交換を行いました

いえかつ系魚川、十日町市移住コンシェルジュを視察



平成 29 年 4 月、「いえかつ系魚川」を立ち上げて、空き家を有効活用し移住・定住につなげています

■民間の力で空き家を利活用

11 月 8 日、いえかつ系魚川（一般社団法人空き家活用ネットワーク系魚川）に伺い、空き家利活用の取組をお聞きしました。

平成 29 年 8 月に、市から「空き家・空き店舗バンク」を移行し運営しており、迅速で柔軟な対応をしています。商工会議所の建物内に事務局を置き、ホームページや SNS を活用して売りたい人と買いたい人をつなぎ、新規登録 40 件／年、成約 30 件／年、ホームページのアクセスは 3 ～ 4 万件／月と好調。「田舎暮らしの本」などの専門情報誌からの取材も多く、市の魅力の発信にも一役買

っています。ホームページは動画も活用した物件の情報に加え、スーパ一等の施設、自然の魅力など幅広く役立つ情報を掲載し見やすくなっています。

きめ細かい助成制度など市の企画定住課と連携、地元の不動産事業者、リフォーム建築業者等地域の事業者との連携も合わせて地域全体で空き家活用を移住につなげる取組を行っています。海、山、街なかの 3 つの環境からなる系魚川市は柿崎区と似ている面も多く、柿崎区ならではの取組の先行事例として有意義な視察でした。

■コワーキングスペースに

移住コンシェルジュを設置

11 月 18 日に視察した「十日町市移住コンシェルジュ」は、十日町市への U・I ターン検討者や移住潜在者に対して、市の情報発信と移住相談、さらに移住後のフォローを含めたサポートを実施するため、今年度 4 月に十日町市が設置しました。運営は(有)瀧長商店が行い、十日町市が補助金を支給し移住した 2 名の移住支援員、非常勤 2 名の他、市内各所にサポーターを設置しています。運営場所は、(有)瀧長商店のコワーキングスペース。誰でも気軽に立ち寄



コワーキングスペース「アスト」に移住コンシェルジュを設置し、きめ細やかな相談と移住後のフォローを行っています

ることができ、地元の個人事業主や移住希望者が利用しています。

移住相談があると、物件紹介をしたのち 1 ～ 2 週間後に再度相談を行い、話を進めています。相談受付は令和 4 年度 405 件、移住決定者数は 4 組 8 名、さらに今年度 14 組 18 人が見込まれています。開所時間は月曜日から土曜日の午前 10 時から午後 4 時。移住希望者は土曜日に来所することが多く、行政から切り離れた効果が出ています。空き家対策や移住者受け入れには、きめ細かい情報発信ときめ細かいサポートが必要と認識しました。

（会長 吉井一寛、委員 小出祥世）

今年度地域活動支援事業に採択した事業を紹介します

かきざき湖八重桜広場の八重桜植樹事業

ガンバ米山 稲井 伊佐男

11月3日秋晴れの中、重機を使い、穴を掘り、支柱を設置し、樹齢約8年、高さ5メートルの八重桜を植樹しました。また、八重桜広場周辺の電気柵撤去、八重桜の囲い及び周辺の草刈りなど、地域の皆さんと作業を行いました。

八重桜の植樹と管理は、毎年地域の皆さんと柿崎まちづくり振興会の寄付や地域活動支援事業の補助を受け、今年で15年になります。「咲き誇る八重桜を車で回りながら観賞できないか」と考え、広場の中央に道を造り、以前からあった道路と開通させ、今では車で八重桜を観賞しながら一周できるようになりました。

今後も地域の皆さんの協力のもと、八重桜の植樹と管理を続けていきたいと考えています。来年の4月27日から5月5日頃には、約260本の八重桜が満開になると思います。柿崎川ダム手前50メートルの左側にある八重桜広場に、ぜひおいでください。



満開の八重桜と周回道路



重機を使い支柱を立て八重桜を植樹

柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」事業

実行委員会 角張 寛美

昨年度に続き「下黒川を元気に」を合言葉に、地区町内会長協議会が音頭をとり、老人クラブ連合会下黒川支部、まちづくり振興会下黒川地区運営委員会、柿崎地区公民館下黒川分館、下黒川小学校PTAの5団体が結集し、オール下黒川で下黒川地区夏まつりに取り組みました。

今年度は、竹灯籠作りと点灯をメインに実施することを決定し、区内の町内会長が協力して灯籠づくりを汗を流しました。夏まつり当日は、水を引いたブルーシート上に、LEDライトが灯された竹灯籠が幻想的な雰囲気を出し効果抜群でした。

8月21日夜、下黒川小学校グラウンドで夏まつりを開催。オープニングは、下黒川小学校5、6年生の元気いっぱい太鼓演奏と北頸城担ぎ桶胴連演舞の力強い太鼓が会場を圧倒。続いて、ピアスの歌と演奏、伝統の盆踊り「十三夜」、子ども花火遊びと進行。ファイナーレは「ナイヤガラ」等の打ち上げで感動のうちに幕を閉じ、子どもたちは竹灯籠を土産に帰途につきました。



下黒川小学校5、6年生の力強い太鼓演奏



LED ライトが灯され幻想的な竹灯籠

まちづくりフォーラムを開催します

柿崎区地域協議会の活動報告や地域活動支援事業の成果報告等を行います。
詳しくは1月の回覧チラシをご覧ください。

- ◎開催日時：令和 5 年 2 月 19 日（日）
午後 1 時 30 分から（2 時間 30 分程度）
- ◎会 場：柿崎コミュニティプラザ 4 階 ホール

柿崎区地域協議会の主なうごき(令和 4 年 10 月～令和 4 年 12 月)

開催月日	会議名	開催月日	会議名
10 月 13 日	第 9 回みんなの保育園を考える会会議	11 月 15 日	第 2 回まちづくりフォーラム実行委員会
10 月 18 日	第 8 回地域協議会	11 月 15 日	第 2 回地域活性化の方向性の作成検討会
10 月 18 日	第 1 回まちづくりフォーラム実行委員会	11 月 18 日	十日町市移住コンシェルジュ視察研修
10 月 18 日	第 1 回地域活性化の方向性の作成検討会	11 月 19 日	保育園保護者会役員と懇談会
10 月 18 日	第 5 回地域協議会だより編集委員会	11 月 19 日	頸北地区地域協議会委員合同研修会
10 月 21 日	第 22 回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議	11 月 24 日	第 23 回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議
10 月 27 日	第 10 回みんなの保育園を考える会会議	12 月 1 日	第 6 回地域協議会だより編集委員会
11 月 8 日	いえかつ糸魚川視察研修	12 月 15 日	第 24 回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議
11 月 14 日	第 11 回みんなの保育園を考える会会議	12 月 20 日	第 10 回地域協議会
11 月 15 日	第 9 回地域協議会	12 月 20 日	第 3 回地域活性化の方向性の作成検討会

【編集後記】

「来年は良い年となりますように」と誰もが願うところですが、コロナ禍も、物価高も、そして世界的な不穏な動きも、どうか収まりますようにと願うばかりです。

さて、寒さが身にしみる今日この頃ですが、地域協議会では地域の課題解決に向けたホットな活動が続いています。保育園の今後のあり方を検討している委員会（みんなの保育園を考える会）は、上越市に対する意見書の提出に向けて詰めの協議に入っています。空き家を活かした地域の活性化を検討している委員会（柿崎空き家活かそうプロジェクト）は、今回の地域協議会だよりに掲載したとおり、視察を行って委員一同大いに刺激を受けたところでした。委員の任期は来年度が最終年度となります。保育園と空き家の課題については、来年度中には何とか……と、目標を掲げて今年を締めくくりたいと思っています。

皆様、良いお年をお迎えください。

（蓑輪 和彦）

編集委員長	中村 誠
編集委員	白井一夫 武田正教
	箕輪明男 蓑輪和彦
	吉井一寛 吉村 正